

たなぼたでんせつ 七夕伝説のおはなし

絵に色をぬってね！

七夕伝説に出てくる星は、こと座のベガ「織姫星」とわし座のアルタイル「彦星」。この2つは天の川をはさんで輝いているよ。七夕伝説のおはなしはいろいろあり、各地でさまざまなおはなしが伝えられているよ。調べてみてね！七夕はもともと中国の行事なんだ。七夕の歴史も調べてみよう！昔の暦の7月7日は、現在でいうと8月ごろになるんだよ。

(日本のおはなし)

天の王様である天帝には、織姫というまじめで機織りが得意な娘がいました。

織姫は毎日父の着物を織っており、忙しい日々を過ごしていたため、好きな人を見つける暇もありません。天帝はかわいそうに思い、織姫にあう恋人を見つけてあげようと考えました。

川の向こう側に牽牛という真面目で気立てのいい牛飼いの青年が住んでいました。天帝は彼と娘を会わせてみることにしました。

すると二人はお互い気に入って、すぐに恋人同士になりました。それから二人は毎日仲よく過ごしました。

しかし、恋に夢中になりすぎてしまい、仕事をなまけるようになり、それを見た天帝は怒ってしまい、天の川をはさんで二人を離れ離れにしたのです。

織姫は、牽牛に会えなくなり、とても悲しみ毎日泣きながら過ごすようになり、天帝はあまりにもその姿がかわいそうに思い、カラスに「7日(1週間)に1日だけ会ってもいいよ」と伝えるよう頼みました。ですが、カラスは、「7月7日だけ会ってもいいよ」と間違えて伝えてしまったのです。

それで二人は1年に1日、7月7日だけしか会えなくなりました。

二人は7月7日がかかるのを待ち遠しく思いながら1年を過ごしています。その日は、天の川をわたって会いに行くのです。

